

## ようこそ IBIS2006、真剣勝負の場へ

IBIS2006 実行委員長 大阪大学 鈴木謙

IBIS2006 の参加者の皆さん、ようこそ。今年は、大阪での開催となりました。私自身、2001年に東京(国立情報学研究所)でIBISワークショップを開催したことがあります。東京から離れるので、講演や参加者の数が減るのではと内心危惧していましたが、やはり非常に多くの方に興味をもっていただき、今年も盛大なワークショップとなりました。

そもそもIBISは、1998年7月に山西健司氏(現NEC)と竹内純一氏(現九大)の呼びかけのもと、広い分野にまたがる学習研究者の交流の場として自然発生的に旗揚げされたワークショップで、計算論的学習論、情報理論、統計学、統計物理学、ベイズ理論、情報幾何学といった多くの分野の研究者が一同に会して議論をする場です。

今年のIBISは、東京工業大学の渡辺澄夫先生にプログラム委員長をお願いしました。プログラム委員の皆様のご尽力により、Heinz Muhlenbein氏(遺伝的アルゴリズム)・神谷之康氏(脳インターフェイス)の特別講演、確率モデルと集団最適化(オーガナイザ:赤穂昭太郎氏)・自然言語とゲノム言語への統計的アプローチ(オーガナイザ:浅井潔氏)・複雑ネットワークのサイエンス(オーガナイザ:林幸雄氏)のオーガナイズドセッションなど、IBISの守備範囲でありながらこれまでスポットをあててこなかったテーマの企画を参加者の皆様に提供することができました。また、このプログラム委員会を旗印に、皆様から一般講演として40件(IBIS2005は、33件)をご投稿いただきました。

私自身、過去の8回のIBISはすべて参加させていただいています。ただ、情報科学の研究集会の中で、IBISほど熱心な議論が行われているところを私は知りません。研究のアウトプットもさることながら、参加者の皆さんの情熱にはいつも感服する限りです。参加者の皆様がIBIS2006を真剣勝負の場として、有益なお時間を過ごせていただければ、開催関係者としてはこんなにうれしいことはありません。

最後に簡単ではございますが、IBIS2006開催のためにご尽力いただいた皆様に感謝して、私の挨拶とさせていただきます。